

令和2年度 社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会事業報告

1. 報告

近年、少子・高齢化の進行等による家族構成や地域社会が変化し、生活困窮や社会的孤立、排除、引きこもりの問題等、地域社会を取り巻く課題はこれまで以上に複雑で多様化、そして複合化し、地域や関係機関等と連携した取り組みが求められてきました。

本市域では、東日本大震災から9年が経過し、被災された方の災害公営住宅への入居に伴って新たな地域コミュニティでの住民同士の見守りや交流など、少しずつ互いに支え合う活動の輪が広がってきました。

このような中、新型コロナウイルス感染症発生は、安定雇用による生活の確保、経済をはじめ地域福祉推進など多くの活動や取り組みに甚大な影響を及ぼし、生活環境の変化はさらなる生活困窮やフレイルなど新たな福祉課題を発生させることとなりました。

こうした状況を踏まえ、本会は「誰もが住み慣れた地域で自分らしく生きいきと暮らせる共生社会づくり」を推進するため地域住民とともに歩むことを基本に据えた第3期地域福祉活動計画に基づき、住民の福祉課題の解決に向けた自発的な活動と、住民の福祉課題への関心を高め、福祉活動への参加促進を図る取り組みを、コロナ禍にあっても工夫をしながら展開してきましたが、感染症防止策としてやむを得ず見合わせた事業もあり、大きな混乱のなかで地域づくりを模索した一年となりました。

共生社会の実現に向け地域においては、地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）が安心して地域福祉活動に取り組めるよう連携を強化し、懇談会や打ち合わせ、様々な活動など地域の方へ積極的に出向く姿勢を徹底し、情報提供や地域のつながり、見守りとなる小地域ネットワークの再構築と強化、地域リーダーの発掘に努めました。

高齢者や障害者、子ども等すべての方々への複合化・多様化した福祉課題に対応するための総合相談支援体制の拡充と地区社協など地域とのネットワークの強化を図り、行政など関係機関や団体との連携を深め、包括的な支援体制づくりの更なる充実が求められています。

本会の運営財源の核となる介護保険事業・障害者支援事業は、インフォーマルなサービスとの連携を視野に法令を遵守して利用者個々の尊厳を基本に安心してサービスを受けられる体制を整備し、良質できめ細やかなサービス提供に努め、利用者やその家族との信頼関係を築き、安定的な事業運営に努めましたが、厳しい財政運営は改善に至っておらず、更なる努力が必要です。

気仙沼市の公の施設の指定管理事業は、自立支援事業3事業、介護保険事業3事業、受託事業2事業を運営してきましたが、このうち令和3年度からは7事業の指定を受けることとなり、引き続き安定した事業展開に向けて努力してまいります。

本会としては、地域社会を取り巻く環境を十分に認識し、地域福祉推進の先導的な役割を果たすとともに、ガバナンスの強化と職員のコンプライアンスのさらなる醸成を図り、経営状況を適切に判断して責任と透明性のある運営に努めてまいりました。

以下、令和2年度の事業について、報告します。

〈重点目標〉

1 地域福祉活動計画の推進

地域福祉活動計画の推進に当たっては、地域福祉活動を担う人材の発掘や育成、住民が参加しやすいサロン活動等への支援、地域課題の把握と解決に向けた活動への支援に取り組みました。

（１）地域福祉活動推進のための担い手育成の強化

地域福祉活動を推進していくうえで、地区社協をはじめ活動の担い手をどのように育成していくかが重要な課題ではありますが、解決のためには地道な取り組みが必要であることから、地域関係者の方々と共に考えながら、取り組みました。

（２）地区社協等の活動支援

地区住民を中心とした組織として、地域で福祉活動を行っている地区社協への支援は、本会業務の大きな柱であることから、小地域福祉活動への助成を継続して行い、地区社協が地域活動拠点として機能できるよう、運営に対する支援に努めました。

（３）災害公営住宅等のコミュニティ活性化のための支援

東日本大震災から９年が経過し、災害公営住宅等においては、自治会の結成や周辺自治会への加入が進んだものの、リーダーの選出等の課題が浮き彫りになってきており、本会として引き続き関係機関や支援団体との連携の下、活性化に向けた支援を継続しました。

2 地域共生社会の実現に向けた取り組みの拡充

（１）地域包括ケアシステム構築への取り組み

地域共生社会の実現には地域包括ケアシステムの理解が不可欠であることから、地区社協と連携しての懇談会を開催する等、地域課題の共有と併せ、不足しているサービス資源発掘に向けた社会資源の把握や意識付けなどの活動を推進しました。

3 介護保険事業・障害福祉サービス事業への対応

本会の財政基盤を支える介護保険事業や障害福祉サービス事業にあつては、近年の利用者の減少に伴って、報酬の減収が続いており、事業の統合や廃止を検討し、一部事業について統合し、経営健全化に向けた取り組みに努めました。

4 指定管理事業への対応

指定管理施設においては、市民から親しまれ、利用したい施設を運営の基本として、本会の特性を活かした良質なサービス提供に努めることとするものの、運営状況を直視して次期指定に向けた検討を行い、７事業について指定を受けることとなりました。

5 組織体制改革と経営基盤の強化

厳しい社協運営が続く中、社会福祉法人に求められているコンプライアンスの徹底とガバナンス強化に向けた組織体制の改善と経営基盤の強化に向けて、職員の人材育成や広報活動の充実、財源確保に努めました。

(1) 社会福祉法人制度改革への対応

令和元年度の監査委員から指摘があった法人運営や財務会計の管理体制に係る課題等のチェックを行い、適切な事務・事業執行に取り組みましたが、内部統制の強化などさらなる取り組みが必要です。

(2) 組織の見直しと経営基盤の確立

本会の財政基盤は脆弱であり、介護保険事業や障害福祉サービス事業へ頼らざるを得ない状況にありますが、利用者の減少による収入の減少が続いていることから、組織再編の検討とともに自主財源の確保を図り財政基盤の確立に努めましたが、更なる取り組みが必要です。

1. 法人運営事業

事業名	内 容
理事会の開催	【概要】地域福祉の担い手としてふさわしい事業を進めるため、理事会、評議員会を中心として事業の推進を図りました。 ① 令和2年6月9日（火）午後1時30分 出席者 理事14人 監事2人 1 評議員会に提案する「補欠理事候補者」の選任同意について【同意】 2 任期満了に伴う企画経営委員会委員及び地域福祉推進委員会委員の選任同意について【同意】 3 気仙沼市応急仮設住宅入居者等サポートセンター事業運営要綱を廃止する規程制定について【同意】 4 大谷学童保育センター運営規程を廃止する規程制定について【同意】 5 令和元年度事業報告及び決算について【同意】 6 社会福祉充実残額の報告について【同意】 7 令和2年度補正予算（案）について【同意】 8 評議員会の招集について【同意】
	② 令和3年1月29日（金）午後1時30分 令和3年1月19日開催の本会正副会長会議において、市内での新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、1月29日開催予定の理事会はみなし決議で開催することとし、令和3年1月21日、理事の全員に対して理事会の決議の目的である事項について下記の内容を記載した同意書を発したところ、当該提案につき、理事の全員から同意の意思表示を得ました。 1 評議員選任・解任委員会に提案する「補欠評議員候補者」の選任同意について【同意】 2 ハラスメント防止規程の制定について【同意】 3 定款施行細則の一部を改正する規程制定について【同意】 4 文書取扱規程の一部を改正する規程制定について【同意】 5 職員等就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 6 60歳定年退職者の再雇用規程の一部を改正する規程制定について【同意】 7 老人福祉センター管理規程を廃止する規程制定について【同意】 8 気仙沼市福寿荘デイサービスセンター運営規程を廃止する規程制定について【同意】
	③ 令和3年3月16日（火）午前10時 出席者 理事14人 監事2人 1 評議員会に提案する「補欠理事候補者」の選任同意について【同意】 2 気仙沼市唐桑保健福祉センター運営規程の制定について【同意】 3 気仙沼市福祉の里野外施設運営規程の制定について【同意】 4 定款の一部を変更する規程制定について【同意】 5 経理規程の一部を改正する規程制定について【同意】

	6 職員就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 7 指定（介護予防）グループホーム桑の実運営規程の一部を改正する規程制定について【同意】 8 令和2年度資金収支補正予算（案）について【同意】 9 令和3年度事業計画（案）について【同意】 10 令和3年度資金収支予算（案）について【同意】 11 評議員会の招集について【同意】 【成果】様々のご意見をいただきながら、法人の健全経営や地域福祉を推進するための事業を効果的に行うことができました。 また、第3期地域福祉活動計画に基づく事業を推進するとともに、「市地域福祉計画・市社協地域福祉活動計画推進委員会」や「地域福祉活動計画推進連絡会議」などを開催し、その意見を基に事業を進めるとともに、理事会及び評議員会と一体での事業を効果的に進めました。 【決算】84,000円
評議員会の開催	【概要】地域福祉の担い手としてふさわしい事業を進めるため、理事会、評議員会を中心として事業の推進を図りました。 ① 令和2年6月24日（水）午後1時30分 出席者 評議員22人 理事4人 監事1人 1 補欠理事の選任について【選任】 2 令和元年度事業報告及び決算について【承認】 3 令和元年度社会福祉充実残額について【承認】 4 令和2年度資金収支補正予算（案）について【承認】 ② 令和3年3月24日（水）午後1時30分 令和3年3月16日開催の理事会において、令和3年3月24日の評議員会開催について同意を得ましたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大の状況等に鑑み、改めて本会理事に対し評議員会開催の有無について諮り、評議員会を開催することなく、提案事項の決議を省略するみなし決議について同意を得ました。これにより3月24日開催予定の評議員会はみなし決議で開催することとし、3月23日、評議員の全員に対して評議員会の決議の目的である事項について下記の内容を記載した同意書を発したところ、当該提案につき、評議員の全員から同意の意思表示を得ました。 1 補欠理事の選任について 2 定款の一部を変更する規程制定について 3 令和2年度資金収支補正予算（案）について 4 令和3年度事業計画（案）について 5 令和3年度資金収支予算（案）について 【成果】様々のご意見をいただきながら、法人の健全経営や地域福祉を推進するための事業を効果的に行うことができました。 また、第3期地域福祉活動計画に基づく事業を推進するとともに、「市地域福祉計画・市社協地域福祉活動計画推進委員会」や「地域福祉活動計画推進連絡会

	議」などを開催し、その意見を基に事業を進めるとともに、理事会及び評議員会と一体での事業を効果的に進めました。 【決算】78,000 円
監査会の開催	【概要】理事の業務執行状況及び法人の財産の状況について監査会を実施しました。 ① 令和2年5月19日（火）、5月20日（水） 1 令和元年度理事の業務執行状況及び事業並びに決算監査について ② 令和2年11月12日（木）、11月13日（金） 1 令和2年度理事の業務執行状況及び事業並びに会計監査について 【成果】理事の業務執行の状況及び法人の財産等の状況について、厳しい財政との意見をいただき、その状況を職員間で共有し経費の節減や稼働率の改善に鋭意努めました。 【決算】156,000 円

【1】会員数〈会費〉

一般会費〈令和2年度〉	16,507世帯	4,952,100円
〈令和元年度〉	16,629世帯	4,987,800円
賛助会費〈令和2年度〉	2,179世帯	2,225,000円
〈令和元年度〉	2,338世帯	2,397,000円
特別賛助会費		
〈令和2年度〉42法人・9個人		465,000円
〈令和元年度〉48法人・13個人		545,000円
団体会費〈令和2年度〉	13団体	39,000円
〈令和元年度〉	13団体	39,000円

【2】役員・評議員

理事 15名 令和3年3月31日現在

監事 3名 令和3年3月31日現在

任期：令和元年6月25日から令和2年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：13名以上16名以内

評議員 29名 令和3年3月31日現在

任期：平成29年4月1日から令和2年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：28名以上33名以内

【3】評議員選任・解任委員会

委員 5名 令和3年3月31日現在

任期：令和2年度に関する定時評議員会終結の時まで

定数：5名

令和2年度 会費納入及び助成金交付状況

令和3年3月31日現在 (単位：円)

地区社協	納 入			交 付				合 計	
	一般会費	賛助会費	特別賛助会費	活 動 費 助 成			給食 サービス		
				一般会費	賛助会費	特別賛助 会費			合 計
西	600,000	213,000	85,000	200,000	63,900	17,000	280,900	55,600	336,500
	2,000	198	9						
上	396,000	480,000	20,000	132,000	144,000	4,000	280,000	34,000	424,100
	1,320	470	3						
中央	105,000	4,000	55,000	35,000	1,200	11,000	47,200		66,700
	350	4	7						
魚町	87,900	79,000		29,300	23,700		53,000		53,000
	293	75							
南町・柏崎				0			0		0
南	96,000	37,000	35,000	32,000	11,100	7,000	50,100		50,100
	320	36	4						
鹿折	210,000	168,000	15,000	70,000	50,400	3,000	123,400	25,000	148,400
	700	168	2						
松岩	699,900	443,000	100,000	233,300	132,900	20,000	386,200	6,300	432,100
	2,333	439	10						
新月	405,000	442,000	85,000	135,000	132,600	17,000	284,600	26,185	310,785
	1,350	434	9						
階上	299,100			99,700			99,700	61,200	160,900
	997								
大島	260,700	115,000	20,000	86,900	34,500	4,000	125,400		125,400
	869	113	2						
面瀬	360,000	229,000	40,000	120,000	68,700	8,000	196,700	25,200	221,900
	1,200	229	4						
唐桑	547,800	15,000		182,600	4,500		187,100		187,100
	1,826	13							
小泉	120,900			40,300			40,300		40,300
	403								
津谷	438,600		10,000	146,200		2,000	148,200		148,200
	1,462		1						
大谷	325,200			108,400			108,400	21,600	180,000
	1,084							50,000	
合計	4,952,100	2,225,000	465,000	1,650,700	667,500	93,000	2,411,200	277,200	2,885,485
	16,507	2,179	42法人9個人					197,085	

※下段は加入者数
※団体会員13団体 39,000円

2. 地域福祉事業

事業名	内 容
地区社協会長会議の開催	【概要】住民参加による地域福祉活動の推進を図るため、会長会議を開催し、情報交換等を行いました。 【実績】 ① 令和2年7月14日（火） 1 令和2年度社協会費のとりまとめ方について 2 生活支援体制整備事業について 3 地区住民懇談会の開催について 4 地域支え合い活動推進モデル地区社協指定事業について 5 地区社協活動（地域福祉活動）支援の取り組みについて 6 気仙沼市社協地域福祉活動計画推進連絡会議について 7 赤い羽根街頭募金の協力方について ② 令和2年12月22日（火） 1 令和2年度歳末たすけあい募金配分について 2 地区社会福祉協議会活動助成配分について 【成果】コロナ禍での地区社協活動について、同様の悩みを共有する中で、市社協へ先駆的事例紹介を求める声があったことから、県内外の取組みをまとめ提供をしました。 【課題】各地区社協の取組み紹介や運営面の工夫など、相互の活動がより共有でき生かせるよう、情報交換の内容の充実が課題です。 【今後の取組】地区社協会長会議の回数を増やししながら、幅広い意見の聴取と地区社協間の情報交換・共有などを充実させます。また、市社協と協働事業の働きかけや、コロナ禍における地域活動の進め方など具体的な情報提供や説明、相談対応を継続していきます。 【決算】251,920 円
地域福祉活動計画の推進と進行管理	【概要】地域福祉活動計画の具体的な取り組みの実施状況を把握しながら、効果的な計画遂行と継続的な進行管理を行いました。 【実績】 地域福祉活動計画推進連絡会議（2回開催） 地域福祉活動計画推進委員会（2回開催） 地域福祉活動計画推進委員会部会（2回開催） 啓発ポスター作成（500枚） 【成果】地域福祉活動計画推進連絡会議では、全地区社協より新委員の推薦をいただきました。連絡会議では昨年度の評価シートや令和3年度の方針等を作成し、地域福祉推進委員会や推進委員会部会に提出し意見・要望・評価等をいただくなど、適切な進行管理ができました。また、地域福祉推進委員会においても新委員を委嘱しました。 【課題】コロナ禍において、連絡会議及び推進委員会の開催時期が遅れました。 【今後の取組】第3期計画に基づき事業を実施します。また、市民への

	地域福祉活動への参加促進を目指し、職員が地域に出向き啓発活動を進めます。なお、第3期計画の中間年度であることから、次期計画について、検討を進めます。 【決算】520,095 円
小地域福祉活動の推進	【概要】誰もが地域の中で安心して生活できるよう住民同士が協力し、見守り、助け合い、支え合う小地域福祉活動を推進しました。 また、生活支援体制整備事業の「支え合う地域づくり」と目的が合致することから、連携を強化して推進しました。 【実績】・地域支え合い活動推進モデル地区社協指定事業 【指定】2年目 ・大谷地区社会福祉協議会 1年目 ・上地区社会福祉協議会 1年目 ・鹿折地区社会福祉協議会 ・地区住民懇談会 6地区社協 ・小地域福祉活動補助金交付 4地区社協 ・フレイル予防とコロナ禍の中こそ地域のつながりの大切さを伝える周知チラシ作成・配布 7地区社協、1自治会配布・回覧 【成果】コロナ禍により地域活動が自粛を要請される中、フレイル予防と人と人のつながりの大切さを伝えるチラシを作成し、希望する場合は地区社協名や自治会名も印刷して地区社協から広く配付しました。また、地域支え合い推進員が、他市町の先駆的事例の紹介や感染予防の周知等、情報提供に努めたことで、予防対策を徹底してのサロン活動や地域行事の再開も見られました。さらに、モデル地区社協の活動が広報や会議等で紹介されることで、活動の広がりが図られつつあります。 【課題】コロナ禍により、地域福祉推進フォーラム等開催ができませんでした。リモートや地区別開催等、手法を柔軟に検討する必要があります。 【今後の取組】小地域福祉活動の充実・強化を目指し、計画的にモデル地区社協の指定に取り組むとともに、その取組みが他地域に波及するよう様々な場面を捉えて周知に努めます。また、小地域活動を進める上での住民向けパンフレットを作成や地域福祉推進フォーラムの開催等、誰もが参加しやすい環境をつくりながら、小地域福祉活動の理解と参加を促進します。 【決算】548,527 円
生活相談所の運営	【概要】気仙沼地域では社協本所相談室で週4日（月、火、水、金）午前9時から午後3時まで、本吉地域では本吉支所で毎週月曜日の午前9時30分から午前11時30分まで生活相談所を開設し、生活上の心配事や悩みごとの相談事業を実施しました。 【実績】 ①生活相談所 気仙沼地域：相談員4人 開設日数166日 相談件数21件

	本吉地域：相談員6人 開設日数 47日 相談件数28件 第2. 3月曜日は生活困窮者自立相談支援事業所「ひありんく」と合同開設となりました。 ②各種会議・研修 情報共有会議：実施回数1回 相談員連絡会議：気仙沼地域1回 令和2年度宮城県相談技法研修会（実施主体：宮城県社協） 令和2年度相談技法研修会（実施主体：市社協） 【成果】相談の内容に応じて、傾聴や他機関への紹介、助言等を行い相談窓口業務としての一定の役割を果たしました。 また、宮城県社協主催の相談技法研修会のほか、本会主催の研修会を開催し相談員の相談技法向上に努めました。 【課題】相談所機能の活性化が必要です。 【今後の取り組み】地域に出向くことで相談所事業の周知や気軽に話し合える場を設け相談所機能の活性化を図ります。 【決算額】1,373,361円
広報・啓発	【概要】広報紙「気仙沼市社協だより」を6回発行（5、6、8、10、12、2月）し、全戸及び関係機関に配付しました。また、ホームページを活用して情報発信しました。 【成果】市の広報紙の発行日の変更に伴い、社協だよりの発行日の変更及び本吉支所だよりとの統合を行いました。ホームページの運営では、新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付の記事やボランティア講座のお知らせ等の情報提供とともに、住民の地域福祉活動への参加を促進する啓発活動に努めました。 【課題】新型コロナウイルス感染症の影響により地域の活動が自粛となり、地域団体活動の情報発信をしにくい現状にあります。 【今後の取組】引き続き広報紙及びホームページを活用し、幅広い情報提供と啓発に努めるとともに、SNSを活用した情報発信について検討を行います。 【決算】2,093,895円
本吉地域福祉まつり	【概要】住民が楽しく主体的に集うことにより、福祉を身近に感じ、考えてもらう場とし、さらには、地域でのふれあいと支えあいが一層深まっていくことを目的に開催を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催に係る検討会議で協議し、今年度は従来の開催を見合わせました。 【実績】6月開催の見合わせと同時に、コロナ禍での本吉地域福祉まつりのあり方についても検討し、本吉地域の15のミニ社協（地域振興会）単位での地域福祉まつりとして開催することを決めました。具体的な要綱等を定め、地域が主体的に取り組むことができるよう本会が必要な支援を行うことを盛り込んだ説明資料にて地域や関係団体等への周知を行

	いました。小泉町区及び北区地域振興会にて新しい地域福祉まつりとして、住民主体によるグラウンドゴルフ大会が開催されました。 【成果】コロナ禍での地域福祉活動の再開に関して慎重な地域も多く、大変な状況下ではありますが、新たな本吉地域の地域福祉まつりの趣旨説明への理解をいただき、地域でさらに具体的な説明を求められると、新しい福祉まつりのスタイルが受け入れられつつあります。 【課題】コロナ禍での地域福祉活動の再開に関して慎重な地域も多くあり、安心して実施できるよう地域との話し合いを重ねていくことが必要となっています。 【今後の取組】コロナ禍という大変な状況下ではありますが、引き続き、様々な機会を捉えて事業の趣旨説明と新たな企画を検討しながら、地域が主体的に楽しみながら取り組むことができるよう支援してまいります。 【決算】 34,721 円
善意銀行の運営	【概要】市民から多様な善意の預託を受け、その善意を地域生活支援及び住民参加による地域福祉の増進に資するよう効果的な活用に努めました。 【実績】 預託 金銭40件 2,311,000円 物品 4件 (タオル、雑巾、米、もち米) 払出 金銭41件 2,411,000円 ※残100,000円は令和3年度及び4年度分の交通遺児等お年玉募金分 物品 4件 【成果】寄付者の意向に沿い、地域の団体等への効果的な払い出しができました。 【課題】善意銀行への寄付者は、地域別での偏りがあります。 【今後の取組】速やかな事務処理に努めるとともに、必要に応じ広報による周知を行います。 【決算】事業活動収入 2,311,003 円 事業活動支出 2,612,932 円 その他の活動収入 1,932 円 その他の活動支出 1,944,379 円 当期資金収支差額 324,187 円
地区社協活動費助成事業	【概要】地区社協が実施する地域・在宅福祉に関わる事業活動に関する補助金を交付し、小地域福祉活動を推進しました。 当該地区普通会費納入額の 1／3 相当額 〃 賛助会費納入額の 3／10 相当額 〃 特別賛助会費納入額の 2／10 相当額 【成果】補助金の交付により、地区事業の推進の支援ができました。 【課題】小地域福祉活動の推進や生活支援体制整備事業など、地区社協活動の促進及び協力を進めるための財源の確保をいかに図るかが課題です。

	【今後の取組】地区社協と市社協が一体となり、様々な場面を通して事業活動の理解促進に努め、震災により減少した会員の復活や新規会員を増やすことに努めます。 【決算】 2,411,200 円
屋内ゲートボール場の運営	【概要】市民の福祉の向上と健康増進及びスポーツ振興を図ることを念頭に運営しました。気仙沼市ゲートボール協会に管理運営を委託しています。 【実績】開場日 217日 利用者延べ 1,003人 【成果】常設かつ全天候型のゲートボール競技場として、市民のスポーツ振興の一助となっていますが、コロナ禍により利用回数等は減少となりました。 【課題】利用者の多くが高齢者ということもあり、新型コロナウイルス感染症から身を守るためにゲートボールをはじめ、屋外での運動機会の減少によるフレイルに陥らない為の声がけ等の取り組みも必要です。 【今後の取組】市民とりわけ愛好者である高齢者の健康増進の一助になるよう、引き続き気仙沼市ゲートボール協会との連携協力を進めながら管理運営に努めます。 【決算】 886,940 円
気仙沼市市民福祉センター 管理運営業務	【概要】気仙沼市市民福祉センター条例及び基本協定書に基づき、社会福祉を目的とする市民の相互交流及び高齢者並びに障害者の自立の促進と健康の増進を図り、地域福祉の向上に努めました。 【実績】 利用回数 691回 利用者数 6,028人 【成果】利用申請団体に対し、施設を効果的に利用していただくことができました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用回数及び利用者数が大幅に減少しました。 【課題】近隣に公民館が建設されたことから、施設本来の目的に合った運営が必要となっています。 【今後の取組】令和3年度から生きがい活動支援通所事業の事務所が配置されることに伴い、これまで以上に地域に開かれた施設としての役割を担いながら、市民福祉サービスの向上に努めます。 【決算】 12,640,485 円

3. ボランティアセンターの運営

事業名	内 容
ボランティア相談・調整等 事業	【概要】ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティアの相談・ニーズの受付・調整・派遣等、ボランティアの育成・啓発を推進するとともに、相互理解と互助によるボランティア活動の機運の醸成に努めました。

	【実績】ボランティア相談 10件 調整 9件 被災者支援関係 災害ボランティア相談・問合せ 0件 調整 0件 生活支援ボランティア相談・問合せ 1件 調整 1件 【成果】新しい生活様式に配慮しつつボランティア活動希望者の相談に応じ、ボランティアの育成・啓発の推進に努めました。 【課題】新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティアの依頼者及び活動者双方で自粛が見られます。 【今後の取組】引き続きボランティアの育成・啓発に努め、活動者の増を目指します。 【決算】1,339,517円
見守りボランティア講座の開催	【概要】コロナ禍でも地域のつながりを絶やさず、支えあいの輪を広めるため、見守りボランティアを育成しました。 【実績】開催日と内容、参加人数 1月15日 「地域のつながりをテーマにコロナ禍での つながりをみんなで考えよう！」 参加人数：34名 2月 5日 「活動に活かせるお話の聴き方の コツを身に付けよう！」 参加人数：26名 2月18日 「絵手紙を描いてあなたの気持ちを届けよう！」 参加人数：29名 3月19日 「講座をふりかえろう！」 参加人数：26名 【成果】定員30人のところ、38人の申込みいただき、地域の見守りについての関心の高さが伺えました。 受講者には、3回目までの講座を踏まえて、普段から気に掛けているご近所の方に今回描いた絵手紙をお届けしながら声掛け訪問をする演習を行っていただき、「これまでの講座を活かして、話を聴くことができた」「訪問ツールがあると訪問しやすい」などと言った声が寄せられました。 【課題】感染症対策を行った上で開催しましたが、県内の感染状況により急遽講座内容や開催時間の変更を余儀なくされ、また、受講者の欠席が増えるなど、コロナ禍における講座実施の難しさを考えさせられました。 【今後の取組み】参加された方々には、地域のつながりや見守りについての意見交換の場などに参加していただき、見守りボランティアの推進にご協力いただく予定です。 【決算】297,698円
ボランティア保険の加入	【概要】ボランティアの方々が安心して活動できるよう、ボランティア保険の加入手続きを行いました。 【実績】加入者 1,293人（前年度1,547人） うち、ボラ保険掛金一部助成を受けた方 656人

	(前年度 810人) 事故報告件数 2件 【成果】安心してボランティア活動ができる環境の整備に努めました。 【課題】事故発生時に備え、保険の活用と速やかな事故報告について引き続き周知する必要があります。 【今後の取組】ボランティア保険の加入促進及び事故発生時の保険の活用についての周知に努めます。 【決算】196,800 円
--	--

4. 福祉教育

事業名	内 容
福祉教育活動費補助金交付事業	【概要】気仙沼市内の小・中・高等学校に対し、継続した福祉教育・ボランティア学習の支援を行うため、一校につき年額20,000円を上限に補助金の交付を行いました。 【実績】 補助校数：小学校3校 高校1校 交付金額：67,545円 【成果】市内の小・中・高等学校に周知をし、4校からの申込みがありました。申込み内容は、福祉教育に関する書籍の購入や地域の高齢者等へ贈るメッセージカードの作成費用などで、新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問や交流の形での学習が自粛されている状況が伺えました。 【課題】近年の小中高校の統合や閉校に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響による交流による学習の減少等により、申請数が大幅に減っています。 【今後の取組】学校側と意見交換の場を設ける等して利用しやすい補助金交付について検討するとともに、引き続き事業の周知について工夫しつつ、補助金の交付を行います。 【決算】70,185 円
行事参加協力調整事業 (高校生ボランティアの活動調整)	【概要】市内の福祉施設等から高校生ボランティアの派遣を依頼された際に、市内の高等学校の協力を得てボランティアを募ります。 【実績】新型コロナウイルス感染症の影響により各福祉施設等での行事の自粛などにより、依頼はありませんでした。 【課題】新型コロナウイルス感染症の感染状況により、今後も依頼数の減が見込まれます。 【今後の取組】感染症対策に配慮しつつ他事業と連携し、ボランティアについての理解を深めるよう広報啓発等に努め、活動者の増を図ります。
福祉教育・企業・団体への職員派遣事業	【概要】学校からの福祉教育体験の依頼に基づき、社協職員等を派遣しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、講話と体験学習を同時開催し、密を避けて行いました。

	【概要】学校からの福祉教育体験の依頼に基づき、社協職員等を派遣しました。実施方法や派遣職員については、先方の要望に応じて協議の上で行いました。 【実績】 出前講座 : 小学校 4校 延べ5回 : 中学校 2校 延べ2回 内容 : 高齢者疑似体験、車いす体験、視覚障害体験、 対応 : 社協職員ほか、地域ボランティア協力 【成果】車いす体験が初めてという児童生徒が多く、高齢者や障害についての理解を深め、福祉意識の向上に繋がる機会を提供することができました。体験を実施した学校の中には、近隣の福祉施設に訪問して交流するプログラムを計画していたものの、施設の感染予防対応により実施に至らなかったケースもありました。 【課題】体験から当事者との交流活動まで段階的に学習が進められるような様々な実施例等が提供できるスキルの習得のほか、講師や協力者確保は引き続きの課題となっています。 【今後の取組】実施依頼時に、学校側との企画検討の打合せを行なうなど、丁寧な支援を心掛けます。また、市内の福祉団体、関係機関等と連携しながら取り組みます。
敬老作文募集事業	【概要】敬老をテーマにした作文に取り組むことで児童が高齢者への理解を深め、敬老の心を培う事を目的に市内の小学校に作文を募集し、元教員、児童福祉関係者等9人の審査により、最優秀6点、優秀17点を選びました。また、受賞作品に関しては、社協だよりのほか、学校や企業の協力を得て、地元新聞への掲載やK-ネットにおいて受賞児童が作文朗読出演に加え、敬老作文集を作成し、関係者に配付しました。 【実績】 応募学校数：市内13校 応募総数（学校への提出作品）：125点 各学校からの選考作品数（審査対象作品）：46点 受賞作品総数：23点 【成果】作文に取り組むことで高齢者に対する理解の促進と思いやりやいたわりの心を培うことの一助となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、新学期開始時期の遅れや夏休みの短縮がありましたが、応募総数に関しては昨年以上となりました。 【課題】今後、学校数や児童数の減少が予測されることから、事業内容の見直しが必要です。 【今後の取組】子どもたちの高齢者福祉に対する理解促進のため、当面は現行どおり事業を継続します。 【決算】230,160円

5. 資金貸付等事業

事業名	内 容
生活福祉資金貸付事業	【概要】資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、経済的自立と生活意欲の助長促進及び在宅福祉並びに社会参加の促進を図り、安定した生活を送ることができるよう資金の貸付や相談支援を行いました。 【実績】 教育支援資金 3件 7,470,000円 福祉費 1件 1,301,000円 緊急小口資金 3件 300,000円 【総貸付件数】(令和3年3月末現在) 95件 35,293,539円 【成果】担当民生委員と連携しながら、必要な資金の貸付を行うことができました。 【課題】複合的な課題を抱えている世帯が多く、また、コロナウィルス感染症の影響による特例措置としての重複貸付を受けている方もいることから、より一層自立相談支援機関と連携しながら世帯の自立支援に取り組む必要があります。 【今後の取り組み】宮城県社会福祉協議会や担当民生委員、自立相談支援機関と連携しながら世帯の自立支援に努めます。 【決算額】8,078,499円
生活安定資金貸付事業	【概要】低所得世帯に対し、緊急かつ一時的に必要な生活資金の貸付を行うことにより、その世帯の自立更生を援助、生活の安定に資することを目的として小口の貸付を行いました。 【実績】貸付件数 2件 100,000円 【総貸付件数】(令和3年3月末現在) 11件 383,000円 【成果】一時的に資金貸付の必要が生じた世帯に対し、迅速に対応し世帯の生活安定を図ることができました。また、定期的な通知や償還への働き掛けを行い、少額ずつではあるが返済に繋がったケースがありました。 【課題】長期滞納者への対応が課題となっています。 【今後の取り組み】定期的に通知を発送するなど償還への働き掛けと、担当民生委員と連携しながら生活実態の把握に努めます。 【決算額】119,468円

(震災対応事業)

事業名	内 容
生活復興支援資金貸付事業	【概要】東日本大震災により被災した低所得世帯に対して、当面の生活費や転居費用、住宅補修費等の必要な経費を貸し付けするものです。 【実績】貸付件数 なし

	【総貸付件数】(令和3年3月末現在) 生活復興支援資金 38件 19,150,935円 緊急小口資金特例貸付 203件 19,652,640円 (緊急小口資金特例貸付は平成23年5月を以て終了。) 【課題】 県外転出者や長期滞納者の対応が課題となっています。 【今後の取り組み】 宮城県社会福祉協議会と連携しながら、生活実態の把握に努め償還管理の強化を図ります。
--	---

(コロナウィルス感染症対応事業)

事業名	内 容
コロナウィルス感染症による特例貸付事業 (令和2年3月25日受付開始)	【概要】 新型コロナウイルスの特例措置として、休業等により収入の減少や失業等により生活に困窮している世帯に対し、生計維持のための特例貸付の相談及び申込窓口として対応しました。 【実績】 緊急小口資金特例貸付 153件 28,189,939円 総合支援資金特例貸付 69件 38,150,000円 【課題】 貸付制度を利用することで、就労意欲が低下している傾向があります。 【今後の取り組み】 宮城県社会福祉協議会や自立相談支援機関と連携し、今後も迅速な手続きと生活再建に受けた継続的な支援に努めます。

6. 援護活動

事業名	内 容
災害見舞金等贈呈事業	【概要】 住宅火災等に対し、世帯状況により災害見舞金の贈呈を行いました。 【実績】 4件 【課題】 市社会福祉事務所からの情報を基に贈呈対応手続を行っていることから、発災から贈呈までの時間が必要となります。 【今後の取組】 市及び民生委員・児童委員との連携を密にし、より迅速に見舞金の贈呈ができるよう検討を進めます。 【決算】 135,000円
歳末たすけあい募金配分事業	【概要】 いつまでも住み慣れた地域で暮らしていくために必要な各種支えあい活動が展開できるよう、地区社協をはじめとした地域活動等へ配分を行いました。 【実績】 配分委員会 : 令和2年12月17日開催 収入額合計 : 7,365,179円 (内訳: 募金4,465,179円、市補助金2,900,000円) 【成果】 配分要綱に基づき、在宅長期寝たきり者と長期入院者への配分に加え、地区社会福祉協議会が実施する福祉活動への助成配分、障害福祉施設等への活動助成配分、新入学児童への安心・安全の支援への配分、

	子育て支援団体等への活動助成配分を行いました。 【課題】個別対象者への配分については、在宅長期寝たきり者と長期入院者への配分としました。民生委員・児童委員の協力による世帯把握に努めましたが、生活困窮世帯等をすべて把握することが困難な状況です。しかしながら、対象世帯把握のための方策とともに、ニーズに即した配分先について研究する必要があります。 【今後の取組】市共同募金委員会や民生委員・児童委員及び地区社協との連携を強化しながら、社会情勢と地域の状況把握に努め、地域のニーズと募金趣旨に沿った配分を検討します。 【決算】8,056,413円
交通・海難等遺児に対する 就学支援費の支給事業	【概要】交通事故、海難事故、労働災害及び病死（不慮の事故を含む。）により、扶養していた父母の一方又は双方が死亡した満18歳以下の高校在学までの者に対して、民生委員・児童委員を通じ就学支援費を支給しました。 【実績】遺児家庭 20世帯 遺児数 33人 贈呈金額 258,000円 高校生 10,000円×15人 中学生 8,000円×6人 小学生 5,000円×12人 【成果】遺児とその家族との対面での支援を通じ、相談しやすい環境づくりができました。また、民生委員・児童委員が欠員の地区については、他地区の民生委員・児童委員より協力を得て対応しました。 【課題】財源の確保が課題です。 【今後の取組】民生委員・児童委員による対面での支援を行い、相談しやすい環境づくりに努めます。また、事業の在り方について検討します。 【決算】283,087円

7. 生活支援・障害福祉事業

事業名	内 容
日常生活自立支援事業 (福祉サービス利用援助事業)	【概要】認知症、知的障害、精神障害等の何らかの理由で判断能力が不十分な方々が、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、定期的な訪問による見守りと福祉サービスの利用援助、日常的な金銭、書類管理等のサポートを行いました。
気仙沼・南三陸地域福祉サポートセンター（まもりーぶ気仙沼・南三陸）	個人の権利を擁護するとともに、意思決定を尊重しながら、日常的な生活の自立支援対策として事業を実施しました。 【実績】利用者 58名 (うち認知症26名、知的障害14名、精神障害12名、その他6名) 【成果】高齢者や障害を持った方々に関わる支援機関や親族等からの問い合わせや具体的なサービス利用に向けての相談は、例年と同程度の件

	数が寄せられており、生活を支える事業の一つとしての認識は深まっています。 感染症予防の対策が採られ施設等での面会や利用者宅への積極的な訪問に制限があった中においても、支援計画に基づいた定期的な訪問を行うことで地域での生活を支援することができました。 また、自身での保管が難しい書類等については、市内金融機関の貸金庫に預けることで財産を保全することができました。 【課題】ここ数年契約件数の大幅な増減はありませんが、専門的な関係機関との調整が必要とされ、本事業の範疇では対応困難なケースが増加しています。現在利用契約を締結しているケースの中には、成年後見制度の利用が適当とされる事例も多く、同制度へのスムーズな移行ができるよう、これまで以上の連携と協働及びスキルが必要となっています。 また、親族が高齢となったり、判断能力が不十分となり、サポートを得ることが難しくなった方も増え、親族に関わる支援機関との連携や調整が新たな課題となっています。 本事業は、他のサービスや事業では対応しづらい金銭管理に関しても支援範囲としているため、地域の福祉・保健・医療からの役割への期待は大きなものとなっていますが、金銭管理だけを目的とするサービスと見られるなど、事業の役割や対象者、支援範囲について十分理解されておらず、本来の役割以外のことを求められる等の課題も生じています。 【今後の取組】生活支援員を担える福祉的人材育成のほか、職員の資質向上を目的とした研修会の開催、成年後見制度を見据えた体制作り等関係機関との連携を密にしながら事業の推進と周知啓発を行います。 【決算】 7,593,595 円
フードバンク事業	【概要】みやぎ生協との協定により飲食物の提供を受け、緊急時の生活支援の一助として、主に、本会における資金貸付相談者で生活困窮世帯への食料支援を行いました。 【実績】 6 件 【成果】一時的に生活困窮となっている世帯に対して、食料を提供することで他の支援までの繋ぎとして食の確保をすることができました。 また、食料提供のほか、継続的な支援が必要と思われる方は、自立相談支援機関に繋ぐ等の対応を行いました。 【課題】在庫の状況により、提供可能な食品と数に変動があります。 【今後の取組】引き続き在庫を調整し、緊急時の支援に備えます。
障害者との交流事業 (視覚障害者対象)	【概要】コロナ禍において、日常的にマスクの着用となったことで、手話が伝わりづらいなどの課題が挙げられていることから、手話奉仕員等の研修を兼ねた交流事業を実施しました。 【実績】 開催日：3月14日（日） 場所：市民福祉センターやすらぎ 多目的ホール 参加人数：11名

	【成果】様々な場面を想定し、マスク着用での手話の伝わり方・伝え方を当事者との交流を持ちながら行いました。当事者と手話での会話や直接アドバイスをもらうことで、お互いの思いや相手の立場で考え伝えることの大切さや工夫点など、多くの気づきがあったことで相互理解の促進に繋がりました。 【課題】交流や学習の機会が少ないという声がありました。 【今後の取組】事業趣旨、実施内容の見直しを行いながら、関係機関と連携し、交流事業を継続します。 【決算】14,248 円
ガイドヘルパー派遣事業	【概要】視覚障害者の社会参加を支援し、視覚障害者の社会生活範囲の拡大と福祉の増進を図ることを目的に、視覚障害者介添人の派遣を行いました。 【実績】活動延人数 28 人 (前年度 46 人) 依頼件数 27 件：実人数 5 人・1 団体 (前年度 36 件) 【成果】新型コロナウイルス感染症の影響により団体利用は大幅に減りましたが、個人利用では通院や買い物などに活用されました。 【課題】視覚障害者への手引きサポートという活動内容から、どのように感染症予防対策を行っていくかが課題となっています。 【今後の取組】感染症対策に配慮した内容のガイドヘルパーのフォローアップ講座を行い、活動者の育成に努めます。 【決算】74,341 円
録音サービス事業	【概要】地域のボランティアである「朗読奉仕あいの会」や「個人ボランティア」、「本吉響高校生徒」の協力を得て、「広報けせんぬま」・「社協だより」等を朗読録音し、市内の視覚障害者の方へ送付しました。 【実績】発行回数 気仙沼 10 回 利用者数 19 人 本吉 10 回 利用人数 2 人 【成果】新型コロナウイルス感染症の影響によりボランティア活動が自粛となった期間もありましたが、視覚障害者の方へスムーズな情報提供が出来ました。 【課題】市の広報紙の発行回数の減により、1 回のテープに吹き込まれる情報量が増えています。利用者が聞きやすいテープの作成を心掛けることが大切です。 【今後の取組】継続して情報の提供を行います。また、カセットテープから CD への移行について検討します。 【決算】15,800 円
点訳サービス事業	【概要】市内のボランティアの協力を得て、依頼を受けた資料を点訳しています。 【実績】点訳依頼件数 0 件 (前年度 1 件) 【成果】新型コロナウイルス感染症の影響により気仙沼市視覚障害者福祉協会の総会が中止となった影響により、点訳の依頼はありませんでし

	た。 【課題】現在、市内に点訳ボランティアが1人しかおらず、安定したサービス提供が難しい状況にあります。 【今後の取組】今後とも継続して情報提供を行うとともに、点訳ボランティアの育成に努めます。
--	--